

各科活動報告

集中治療科

担当医

○北山 仁士(集中治療科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本心臓血管外科学会心臓血管外科専門医・修練指導者／臨床研修指導医／医学博士／近畿大学心臓血管外科客員教授／堺市難病指定医

○吉川 健治(集中治療科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○鎌本 洋通(麻酔科部長) (~2021/6)

認定資格：日本麻酔科学会指導医・専門医／日本心臓血管麻酔学会専門医／日本ペインクリニック学会専門医／周術期経食道心エコー認定医／臨床研修指導医

○近畿大学からの招聘医師(麻酔科部長) (2021/7~)

認定資格：日本麻酔科学会専門医・指導医／日本ペインクリニック学会専門医／臨床研修指導医

活動報告

ICUは全科の集中治療を担うgeneral ICUとして、人工呼吸器、IABP,PCPS(ECMO)等の生命維持装置を駆使した呼吸・循環管理、血液浄化療法による体液管理から、代謝・栄養管理まで、標準かつ最先端のICU管理を行っています。

専任医師に加え、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、麻酔科の協力のもと、多職種が一丸となり日夜良好なチーム医療を実践しています。

HCUは、昨年同様に、COVID挿管例や、PCPS、IABP、透析、呼吸器とフル装備の疑似症患者さんの入室がありました。昨年より更に感染者数が増加した状況にもかかわらず、スタッフの努力により、今年もICU、HCUでのクラスター発生や、職員の院内感染を生じる事はありませんでした。

ICUでは、ECPR生還例が増えました。PCPS(VA-ECMO)からVV-ECMOへの変換後の離脱例1例を含め、3例でPCPSの離脱ができました(2例生存)。

PCPSの管理には、循環器科Dr.も積極的に係ってもらいました。

COVID蔓延で病床が逼迫し、ICU、HCUが人工呼吸器や補助装置に埋め尽くされる事態も生じましたが、そのような状況下でも重症例治療の質を落とす事無く集中治療を行えたと思います。

今後の展望と課題

来年度こそCOVID-19沈静化を期待したいものですが、当面は臨戦態勢継続です。感染対策の手を抜く事無く継続し、職員の業務による感染ゼロを堅持したいと思います。

夏には、肺高血圧症に対するNO治療を導入し、PCPS装着例等の重症心不全症例の救命率の向上に努めます。

総合診療センター

担当医

○藤本 卓司(救急総合診療科部長)

認定資格：ICD(Infection Control Doctor)／麻酔科標榜医／京都大学医学部臨床教授／臨床研修指導医

○大矢 亮(副病院長 兼 総合診療センター長 兼 救急総合診療科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医・SDH検討委員会委員／大阪府医師会ACLS大阪認定ディレクター・認定インストラクター／臨床研修指導医プログラム責任者／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了／日本老年医学会高齢者医療研修会修了／HANDS-FDF2014修了／認知症サポート医／日本HPHネットワーク運営委員／難病指定医／大阪医科薬科大学臨床准教授

○藤本 翼(救急総合診療科医長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○川尻 英子

認定資格：日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・指導医

○杉本 雪乃(救急総合診療科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLS認定ディレクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター／JPTECプロバイダー／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了／HANDS-FDF2011修了

○河村 裕美(救急総合診療科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSインストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○松瀬 房子

認定資格：日本内科学会認定内科医／認知症サポート医／社会福祉士

活動報告

2021年度も前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を大きく受ける1年となりました。第4波ではそれまでほとんど経験していなかった重症COVID-19患者を多数診療しなければならない状況となり、第6波では災害級の混乱の中で診療を行わなければなりません。そのような中でもERはできる限りの救急車の受け入れを維持し、年間受け入れ件数は6234件と過去最高水準となりました。

COVID-19以外の入院患者さんは430名の患者を担当しました。教育面では延べ人数で13人の初期研修医、3人の後期研修医、3人のクリニカルクラークシップ医学生を受け入れました。教育面の活動として第232回内科学会近畿地方会において、2年目研修医岡本和佳奈先生が優秀賞を受賞し、2年連続の快挙となりました。対外活動では京都GIMカンファレンスに3回症例提示を行いました。

今後の展望と課題

2022年度は病棟チームに絶えず後期研修医が所属しているため、屋根瓦式教育体制の構築を進めていきます。ERには念願の救急専門医を招くことができたため、こちらも新たな診療と教育体制を構築し救急医療の質の向上に努めます。2024年度に向けて働き方改革への対応も認められるため、マンパワーが圧倒的に不足しているためこれまで以上にリクルートに力を入れます。学術面では学会報告を引き続き積極的に行うだけでなく、京都GIMでの症例提示と論文作成をこれまで以上に貪欲に取り組みます。

● 循環器センター(循環器内科)

担当医

○石原 昭三(副病院長 兼 循環器センター長)

認定資格：日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会専門医・施設代表医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

○鈴鹿 裕城(循環器内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会専門医

○具 滋樹(循環器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医／臨床研修指導医／心臓リハビリテーション指導士

○松岡 玲子(循環器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医／植え込み型除細動器(ICD)・ペースングによる心不全治療(CRT)実施医

○梁 泰成(循環器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医

○宮部 亮

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医

○橋本 朋美(循環器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医 総合内科専門医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医 日本高血圧学会専門医・指導医／植え込み型除細動器(ICD)・ペースングによる心不全治療(CRT)実施医／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)／堺市難病指定医／NST医師教育セミナー修了

○南里 直実

所属学会：日本内科学会／日本循環器学会／日本心血管インターベンション治療学会

活動報告

2021年度はPCI 566件、アブレーション86件、PTA 78件といずれも軽度ながら増加した年であった。昨年に続きCOVID-19感染症のため当科から人員派遣も行いながらも各々の件数の維持ができ、大きな合併症がなく経過することができた。

COVID-19感染症のなかでも開業医訪問や地域との勉強会などによって他院との関係を密に保つことができ紹介患者さんの維持および処置件数の維持につながったと思われる。

循環器内科の処置は侵襲的なものが多く合併症が死につながることもある。そのため毎週月曜日に多職種でカンファレンスを開催し振り返りを行い、改善点を検討した。また、木曜日、金曜日は8時からカンファレンスを行うことで入院患者さん、カテーテル治療などについて医師間で情報を共有した。

今後の展望と課題

1) カテーテル治療のレベルの維持、件数の維持

人員は減るが、これまで同様開業医訪問を継続し必要な患者さんの処置の維持をしたい。その中で合併症に注意し皆が高いレベルで治療できるように教育/指導していく。

2) 生理学検査および心不全加療のレベルアップ

心不全治療および生理学検査をレベルアップすることを期待する。

3) 若手医師の教育

循環器内科を志望している後期研修医が数名ローテートしており、当院循環器内科でスタッフ医師となってもらえるようカンファレンスを身のあるものとし教育していくことが必要と考える。研修のシステムなども構築していく必要がある。また、学会活動が2021年度は不十分であったので2022年度はもう少し力を入れていきたい。

循環器センター(心臓血管外科)

担当医

○井上 剛裕(心臓血管外科主任部長)

認定資格：日本胸部外科学会認定医/日本外科学会外科専門医/心臓血管外科専門医・指導医/堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

○札 琢磨(心臓血管外科部長)

認定資格：日本外科学会専門医・指導医/日本心臓血管外科 専門医・修練指導医/心臓機能障害植込型除細動器・ペースメーカーによる心不全治療実施医/日本移植学会移植認定医・植込み型補助人工心臓実施医/日本血管外科学会認定血管内治療医/胸部・腹部ステントグラフト内挿術実施医・指導医/浅大腿動脈ステントグラフト実施医/臨床研修指導医/堺市身体障害者福祉法指定医師/難病指定医

活動報告

2021年度は手術件数が減少しましたが、30例以上の開心術を行っています。手術・周術期治療を行う上で、安全性を確保しつつ効率的な連携体制を構築し、医療スタッフ、地域連携、循環器センターサポートチームと協働してきました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、6回にわたる感染流行の波を経験し、4回にわたる緊急事態宣言をへて、With コロナ事態下で、外科治療も感染対策の継続的な努力が求められています。当診療科も幸い不具合なく、術前からの周術期管理を安全に行えています。

地域に寄り添う心臓血管外科として、その他の専門施設からの患者様もシームレスに外来・入院を受け入れしています。多疾患併存した心臓血管外科患者さんが多く、心不全再増悪、再入院、重症化予防が喫緊の課題と考えています。そのために多職種チームによる多面的、包括的な疾患管理が必要で、地域医療支援病院の1部門として役割を果たすよう努めています。

心臓血管外科専門医施設として関連施設認定から、専門医基幹施設認定を取得することができました。また当科は、一般社団法人NCDが実施するデータベース事業及び、日本成人心臓血管外科手術データベース(JCVSD)に継続参加しています。

今後の展望と課題

長寿化が進むなかで循環器疾患は、家族の介護負担が必要となる比率が高く、医療費が最もかかるため、その対策強化は重要な課題です。心臓血管外科治療が、事後的な対応から予防的に行うことで介護介入を軽減し、医療費の効率化に貢献できればと考えています。

2020年から新型コロナ肺炎が流行し、2022年もWithコロナ事態下が継続するなかで、医療スタッフを含めた医療資源に負担をかけず、適正配分することも必要となります。

そして今後、少子高齢化、情報化社会が進み、価値観の相違や権利意識が強くなるなか、必要な時期に必

要な治療、手術が受けられる環境を整えることが大切です。同時に患者・家族さんとのいっそうのコミュニケーションの努力も必要となります。

また外科医の平均年齢は、現在では50歳を超えています。当科もそれにもれず医療水準の維持に、チーム医療や多職種の積極的な支援・介入が重要と考えます。また、内科や他科にも術前・術後管理に関与してもらうことも必要な取り組みと考えています。安全性を担保しつつ、情報共有、将来的にIT化による利便性の向上も、課題であると思います。

心臓血管外科治療が、有効性かつ継続性のある地域医療の役割を担えるよう、遠くを見据え日々の業務に粛々と取り組みたいと考えています。

● 消化器センター

担当医

○山口 拓也(副病院長 兼 消化器センター長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医／日本消化器外科学会 消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○岩谷 太平(消化器内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器病学会消化器病専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○岡田 正博(消化器内科部長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝臓機能障害)

○松田 友彦(消化器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

○河村 智宏(消化器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医／臨床研修指導医／日本救急医学会 ICLSインストラクター

○平林 邦昭(大腸・肛門科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)

○裕野 孝治(乳腺甲状腺外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／臨床研修指導医

○小田 直文(乳腺甲状腺外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本乳癌学会乳腺専門医・指導医／検診マンモグラフィ読影認定医／医学博士／日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房エキスパンダー・インプラント責任医師／HBOCコンソーシアム教育セミナー受講

○吉川 健治(肝胆膵外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝臓機能障害)

○戸口 景介(外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／厚生労働省認可麻酔科標榜医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本ヘリコバクター学会H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医／日本腹部救急医学会腹部救急認定医／麻酔科標榜医

○外山 和隆(副病院長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○中江 史朗(腫瘍内科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医／日本大腸肛門学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医／日本臨床腫瘍学会専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医／医学博士

○中川 朋(消化器外科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○今井 稔(消化器外科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／大阪府難病指定医

○土居 桃子

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医

○櫻井 史歩

認定資格：日本内科学会認定内科医

○坂本 祥太(後期研修医)

○三谷 和大(後期研修医)

○山田 淳史(後期研修医)

活動報告

消化器センターは大きく前進しました。消化器センター内科では食道、胃、大腸の内視鏡検査及びESDも大きく件数をのばしております。内視鏡検査では“痛くない”を合言葉にスタッフ一同邁進しております。

また、上部、下部消化管の出血に対しては24時間365日緊急対応する体制を敷き、堺市内の医療向上に寄与しています。悪性疾患等による消化管閉塞に対してはステント治療を広くとりいれ、速やかな手術療法への移行を行い低侵襲な治療を可能にしています。胆道系疾患に対する緊急ERCPも数年間過去最高記録を更新しています。

消化器センター外科では消化管外科、肝胆膵外科、乳腺甲状腺外科、ヘルニア外科などを主に行っています。腹腔鏡下手術が大勢を占めており、胃、大腸にとどまらず、肝胆膵まで腹腔鏡下手術で行うようになってきました。肝臓腫瘍に対しても、体表のみならず、腹腔鏡下エコーを用いたラジオ波治療を取り入れており南大阪でも指折りの件数となっております。今後はロボットの導入に向かい準備中です。

2021年度もコロナ禍でありながら、多数の症例(消化管穿孔、胆嚢炎など数多い症例)をご紹介いただきました。

このように消化器センター内科、外科、専門スタッフのコラボレーションの上、患者さんには最善、最短、低侵襲を合言葉に満足度のいく質の高い治療を安全に提供できていると自負しております。

がん診療拠点病院としての使命を果たすことができるよう、ますますシームレスな医療を展開し、患者さんに対して満足度の高い、質の高い治療を提供しつづけてまいります。

今後の展望と課題

○がん診療をさらに充実させ、集学的治療、放射線治療導入を行って参ります。

○専門的な治療を拡充し専門スタッフの更なるスキルアップを行い患者さん満足度の高い医療を提供して参ります。

○全職種横断的な総合カンファレンス毎週開催し、一層、患者さんやご家族の想いを充分かなえるような治療をチームで提案します。

○上部、下部消化管、肝胆膵分野ごとのエキスパートの育成を行い、患者さんにさらに質の高い治療を提供しつづける努力を継続して参ります。

○腫瘍内科、緩和ケアチームと密接に連絡をとりあい、漢方治療などの補完医療もとりいれ、質の高いケアを提供します。

腎・透析センター(腎臓内科・透析)

担当医

○大矢 麻耶(腎・透析センター長 兼 腎臓内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(腎臓機能障害)

○植田祐美子(腎臓内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会認定腎臓専門医／日本フットケア学会認定フットケア指導士／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(腎臓機能障害)

○熊澤 実

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会専門医・指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(腎臓機能障害)

○林 研(非常勤)

所属学会：日本内科学会／日本腎臓学会／透析療法学会／日本下肢救済・足病学会／日本フットケア学会／堺市身体障害者福祉法指定医師(腎臓機能障害)

活動報告

腎臓内科分野として、2021年も悩ましい症例が多く、外部の先生とも相談しながら治療方針を検討、治療

にあたった。IgA血管炎やネフローゼ症候群など複雑な病態も増えてきている。

また透析分野では、腹膜透析の導入も続き、やや増加傾向ではある。担癌患者や高齢にての老衰など慢性の終末期の場面が増えてきた。それぞれに対して、満足のいく最期がかなうように患者、家族とともに病院スタッフで作り上げた症例も多かった。今後 すべての方によりよい最期を、よりよい今を提供できるよう追求していきたい。

腎透析センターとして、透析看護主任を配置できた。それぞれが模索し他部署との連携を上げた。今後さらに医療の内容充実につなげていきたい。

今後の展望と課題

腎透析センターとして看護師を巻きこめた。今後はさらに、システムとして医療連携、患者理解の架け橋になってもらいたい。

あと一年はスタッフの増員予定はなく、学会発表など内容の充実を図りたい。再来年はスタッフ充実し新たな展開の予定でありその下地を作りたい。

代謝・膠原病内科

担当医

○川口 真弓(代謝・膠原病内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医／リウマチ登録医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体障害)

○岩崎 桂子(代謝・膠原病内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

○松廣 有紀

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本糖尿病学会 糖尿病専門医

活動報告

関連が強い腎臓病グループと同じ病棟でチームとしてカンファレンス・回診を行い入院・外来診療にあたっています。

【糖尿病内科】

○2021年度診療内容

- ・年間を通して教育入院患者の受け入れ(COVID-19流行に伴い一時中止)
- ・糖尿病を基礎疾患にもつ重症入院患者の加療
- ・他院からの重症例の受け入れ
- ・外科系各診療科の内科マネージメント
- ・南大阪糖尿病協会糖尿病ウォークラリー共催
- ・耳原総合病院 糖尿病紹介外来担当、サテライト診療所(高砂クリニック)での糖尿病外来を担当
- ・堺北診療所 糖尿病外来を担当
- ・開業医からの紹介を受け入れ、入院及び外来フォロー等で連携
- ・研修医の教育

妊娠糖尿病を中心に、母性内科の立ち上げ

今後の展望と課題

後期研修医もローテートで回ってくるが増え、カンファレンスも活気が出てきました。糖尿病診療のスキルを生かし急性疾患のみならず、慢性疾患を診ることのできるチーム医療を目指し、その楽しさを研修医の先生にも経験してもらえるような研修システムを作りたいと思います。

外来通院の妊婦さんの糖尿病治療を専門医がフォローし、安全な分娩につなげるため、また開業医に受診されている妊婦さんの甲状腺異常のフォローをするため妊娠糖尿病外来が開設しています。外来部門との合同カンファレンスなどを通じて更なる連携を深めると共に開業医の先生との関わりも深めていくことで多くの患者さんが安心して病気と付き合っていけるよう支えていきたいと思っています。

呼吸器外科

担当医

○佐藤 泰之(呼吸器外科部長)

認定資格：医学博士／日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／ICD(Infection Control Doctor)／
身体障害者福祉法指定医師

活動報告

呼吸器外科の手術件数は、2019年度55件、2020年度は70件と増加しましたが、2021年度は手術室の緊急事態宣言での手術枠制限や病棟閉鎖の影響があり57件と減少しています。内訳は、肺癌などに対する肺葉切除術が20件(2020年度30件)、肺癌や肺転移などに対する肺部分切除術が12件(同18件)、気胸の手術が12件(同11件)、膿胸に対する手術が3件(同7件)、縦隔の手術が6件(同1件)、その他が4件(同3件)となります。そのうち初めからの開胸手術はなく、全てが完全鏡視下での胸腔鏡手術で行っており、緊急開胸例もなく安全な手術が行われています。なお、腫瘍浸潤などに要因する安全担保のための開胸移行は2件あります。また、術後肺瘻のため1例で再手術を要していますが、他は問題となる術後合併症はなく、その再手術例も含め全て軽快退院されています。

2019年度から手掌多汗症の手術も導入していますが、2021年度はコロナ禍の影響か手術例なしでした。

手術助手については非常勤の呼吸器外科医による応援があり、安全かつ手術時間の短縮が実現できていますが、不安定な状況です。また、準緊急手術の際には手術枠確保や他科応援を要するなど安定化にはまだ遠い感があり、他院紹介を余儀なくされる場合も少なくありません。

今後の展望と課題

現在の手術枠や助手体制の中で安全かつ適切な手術を行う上では、手術件数は前年度くらいが最大限かなと思われれます。ただ、準緊急手術に関しては、現行医師体制を考えれば、固定メンバーのMEによる手術助手も考慮していかなければならないかもしれません。また、コロナ禍沈静後には、手掌多汗症手術も近隣広報の上積極的に行っていきたくと思っています。

チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(小児科)

担当医

○藤井 建一(小児科部長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医・指導医／臨床研修指導医／堺小児科医会理事

○瀬戸 司(小児科医長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医／臨床研修指導医

○瀬邊 翠

所属学会：日本小児科学会小児科専門医／臨床研修指導医

○阿曾沼良太

認定資格：日本小児科学会小児科専門医／JPLS小児診療初期対応コース修了／NCPR Aコース修了

○佐藤結衣子

所属学会：日本小児科学会／日本小児神経学会

○安田のぞみ

認定資格：日本小児科学会小児科専門医

○松原 一樹(後期研修医)

○川西 悠加(後期研修医)

活動報告

小児科医師としては、昨年度と同じ、6名の常勤医と1名の後期研修医という体制でした。9階病棟は、2020年7月より、小児科・整形外科・内科との混合病棟(33床)で運営していますが、小児については、入院患者が昨年度よりさらに減少してしまいました。COVID-19感染症の第4波、第5波、第6波と次々に感染の拡大が起こった影響で、入院患者数は伸び悩んでいます。また、6年前から始めた重症心身障害児者のレスパイト入院(スマイルケア入院)も、COVID-19感染症のリスクを避けるために、今年度はほとんど受け入れを停止していました。

6階の産婦人科病棟では、2020年7月よりNICU(新生児集中治療室)を3床開設し、当院出生の新生児を

状態が悪化する前に治療介入して対応しています。出産数については、月に65名前後と昨年同様高い水準を維持しており、24時間体制で新生児医療には力を入れています。そして、初期研修医の小児科研修も常時2～3名受け入れており、病棟医療を中心に研修指導しています。

救急対応としては、救急車や開業医・急病診からの紹介については、24時間365日受け入れ態勢を整備して、地域の小児救急に少しでも役立てるように対応しています。また、土日祝日の午後(13～17時)の時間帯については、電話での確認が前提で、一般の救急患者の診療も実施しています。

今後の展望と課題

この2年間のCOVID-19感染症の影響は甚大で、特に小児の入院については大きな影響を受けましたが、今年度は少しずつ以前の状態に戻していきたいと考えており、救急車や開業医の先生方からのご紹介は積極的に受け入れていく方針としています。お気軽にご紹介いただき、連携を強めていきたいと考えておりますので、どうかよろしくご依頼致します。そして、感染症だけでなく、食物アレルギーや低身長症等の検査入院も実施していますので、地域連携室の方へ是非ご相談ください。また、レスパイト入院についても、2022年4月から、1日1名に限定して、再度受け入れを再開しています。今後、感染の収束を見極めて安全の確保が確認出来次第、順次受け入れ人数を増やしていく方針としています。外来としては、365日24時間、地域の子どもたちに対応できる様な救急外来を目指して、体制作りを進めていく方針です。

2021年度 疾患別統計

| 小児科入院数 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 総計 |
|--------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 2021年度 | 72 | 57 | 73 | 88 | 68 | 39 | 70 | 68 | 47 | 37 | 21 | 39 | 679 |

2021年度 上位疾患

| 疾患名 | 件数 |
|-----------------------|-----|
| 妊娠期間短縮、低出産体重に関する障害 | 221 |
| 急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 | 85 |
| 食物アレルギー | 45 |
| 上気道炎 | 47 |
| てんかん | 32 |
| ウイルス性腸炎 | 28 |
| 喘息 | 26 |
| その他の感染症(真菌を除く) | 25 |
| 川崎病 | 18 |
| 腎臓又は尿路の感染症 | 13 |

チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(産婦人科)

担当医

○坂本 能基(副病院長 兼 CWHCセンター長 兼 産婦人科主任部長 兼 緩和ケア科部長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医／日本東洋医学会漢方専門医／母体保護法指定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○内田 学(産婦人科部長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保護法指定医／麻酔科標榜医／日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医／産業医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)

○松岡 智史(産婦人科医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医／日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門(Aコース)コース修了

○高木 力(産婦人科医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保護法指定医／臨床研修指導医

○瀧口 義弘

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保護法指定医師

○松原 侑子

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医

○斉藤 庸太(後期研修医)

○佐藤 孝憲(後期研修医)

活動報告

1年を通して、新型コロナウイルス感染防止対策によりクラスターを発生することが無かった。

《産科》 妊婦から見た当院の魅力である以下の点を特に意識して取り組みました。

- ・総合病院であり、安全、安心、信頼がある
帝王切開率は一般病院と比較して低いが、新生児仮死が少なく、安全・安心・信頼のお産を実現できている
無痛分娩を安全に管理出来るように、ガイドライン安全基準を満たしている
超緊急帝王切開・母体救命処置法・新生児蘇生処置法を訓練し、実施できている
NICUが設備され運営されている
- ・分娩費が他院と比較して安く、良心的である
分娩一時金内に分娩費用を設定
- ・母子同室 全室個室化(差額室料は無料)
家族のふれあいの実現が達成できている⇒新型コロナウイルス感染防止対策で制限
休養をとりやすい環境を提供できている
- ・立ち会い分娩 陣痛期、分娩期を通して、家族とともに過ごせる環境づくり⇒新型コロナウイルス感染防止対策で制限
- ・小児科との連携強化

《婦人科》

- ・婦人科3分野、腫瘍、内分泌、ウィメンズヘルスケアを網羅している
- ・腫瘍
がん：婦人科がん全ての癌手術が可能。放射線療法は他院と連携
内視鏡下手術(腹腔鏡・子宮鏡)：婦人科手術の約60%は視鏡下手術
- ・不妊症は保険適応内診療が可能
- ・ウィメンズヘルスケア 専門医による診療
女性心身症、更年期障害、適応障害、不安障害、産後うつ病、骨粗鬆症
婦人科内分泌学、心身医学、東洋医学をバランス良くミックスし、幅広い治療を行っている

今後の展望と課題

- ・医療の質をさらに高める努力をします。
- ・新たな命の誕生を祝福できる環境の整備を継続します。
- ・医師・助産師・看護師の数・質ともに向上させます。
- ・2022年度も新型コロナウイルス感染防止対策を徹底します。

泌尿器科

担当医

○田原 秀男(泌尿器科部長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医／堺市
身体障害者福祉法指定医師(膀胱又は直腸機能障害)／医学博士

○松村 直紀(泌尿器科医長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○浜口 守

所属学会：日本泌尿器科学会

活動報告

2021年の手術件数は494件でした。コロナによる受診控えも落ち着き、例年通りの件数となりました。全身麻酔の件数は133件でしたが、このうち93件がレーザーを用いた結石治療(fTUL)による全身麻酔でした。南大阪では結石治療施設として浸透してきているためか、広い地域から紹介があります。特に近畿大学病院からの結石治療困難症例が増えました。

高度先進医療としてBio Jetを用いたMRI標的的生検も順調に紹介患者が増え、32件施行しました。2018年10月から始めたこの治療も、ようやく100件を超えてきました。

今後の展望と課題

- ・泌尿器科医4人体制
- ・働き方改革に向けた計画的な休暇取得を目指す。

整形外科

担当医

○河原林正敏(病院長)

認定資格：日本整形外科学会整形外科専門医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体不自由)

○吉岡 篤志(整形外科部長)

所属学会：日本整形外科学会／中部日本整形外科災害外科学会／日本骨粗鬆症学会

○小松 俊介

所属学会：日本整形外科学会／中部日本整形外科災害外科学会

○守津 汀

所属学会：日本神経学会／中部日本整形外科災害外科学会

○北川 綾美

活動報告

- ・当院整形外科では、骨折を主とした外傷の手術に加え、脊椎手術や人工関節置換術にも力を入れています。脊椎の手術は、大半の症例を顕微鏡視下で行っております。人工関節置換術には侵襲の少ないアプローチ法を導入しております。治療を受けられる患者さんの身体への負担を極力減らすべく、当科では低侵襲手術の実践に引き続き取り組んでいきます。
- ・高齢化・併存疾患の重症化に伴い、近年は手術リスクの高い患者さんが増加しております。麻酔科、内科、循環器内科と連携し、必要時には他科との合同カンファレンス、他職種を含めた倫理カンファレンス等を行い、患者様にとってより良い治療を提案しております。
- ・2021年度の総手術件数は376件で、前年度の456件からやや減少しました。脊椎手術は72件、人工関節手術は43件でした。

今後の展望と課題

京都市民連中央病院との連携を行い、新しい低侵襲手術・腰椎側方椎体間固定術(OLIF)の導入を進め、整形外科診療のさらなるレベルアップを図っていきたいと考えます。

脳神経外科

担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中
学会脳卒中専門医・指導医／日本救急医学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日
本神経救急学会認定ISLSディレクター／臨床研修指導医／共用試験医学系OSCE評価認定講習会修了／回
復期リハビリテーション専従医研修会修了

活動報告

2021年7月11日：第2回みみはらISLS-WSコース 開催

2021年7月11日：第3回みみはらISLSコース 開催

2021年10月10日：第75回耳原総合病院二次救命処置コース 開催

今後の展望と課題

急性期病院ならびに開業医と連携をはかり、紹介・逆紹介患者数を増やします。

脳外科連携病院に、緊急治療が必要な患者さんを速やかに紹介します。

将来を見据え脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医、脳卒中認定医を積極的に募集します。

脳神経外科専門医1名獲得できれば手術が開始できます。

脳血管内治療専門医1名獲得できれば脳血管内治療が開始できます。

脳卒中認定医1名獲得できれば一次脳卒中センター(PSC)を申請できます。

複数名のスタッフが揃えばSCUを設置、24時間体制で脳卒中急性期治療を行えます。

リハビリテーション科

担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中
学会脳卒中専門医・指導医／日本救急医学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日
本神経救急学会認定ISLSディレクター／臨床研修指導医／共用試験医学系OSCE評価認定講習会修了／回
復期リハビリテーション専従医研修会修了

活動報告

【総スタッフ数】理学療法士37名、作業療法士20名、言語聴覚士8名

【入院からリハ処方までの日数】平均0.93日 2日以内の処方割合92.2%

【回復期リハビリ病棟】50床

【回リハ専従スタッフ数】理学療法士18名、作業療法士10名、言語聴覚士2名

【回リハ平均提供単位数】5.1単位(脳血管疾患7.4 運動器3.9 廃用3.8)

【回リハ平均在院日数】57.6日

【在宅復帰率】84.8%

【実績指数】平均52.2点

ICUの超急性期から一般病棟、回復期リハ病棟、緩和ケアと多方面にリハビリを提供しています。

心臓リハビリテーション指導士による心臓リハビリを提供しています。

呼吸療法認定士による呼吸リハなど専門分野に取り組んでいます。

がんリハビリテーションにも取り組んでおり、大腸癌退院時指導用パンフレットを作成しました。

一般病棟では認知症・せん妄対策にチームで取り組んでいます。

COVID-19重症患者に対しても積極的にリハビリ介入しています。

今後の展望と課題

2025年問題に向け、今後益々回復期リハビリ病棟の需要が高まると考えられます。

回復期リハビリ病棟では、提供単位数確保のため休日リハビリを継続していきます。

術前呼吸器リハビリテーションが開始され、さらに多くの患者さんに介入していきます。

患者さんに必要なリハビリ単位数を受けて頂くために、さらにスタッフの増員に取り組めます。

脳外科専門医としてスタッフを教育・指導し、質の高いリハビリ医療の提供を目指します。

緩和ケア科

担当医

○坂本 能基(副病院長 兼 緩和ケア科部長 兼 産婦人科主任部長 兼 CWHCセンター長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医／日本東洋医学会漢方専門医／母体保護法指定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医／緩和ケア研修会修了

○末田 早苗(緩和ケア科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本血液学会専門医

○坂本 英代(~2022/1)

認定資格：日本緩和医療学会認定医／緩和ケア指導者研修会修了

活動報告

- ・緩和ケア病棟がコロナ病棟へ転換されるかもしれない可能性を抱え、緩和ケア医の退職が続き運営が不安定な状況下においても、出来る限り院内外の患者を受け入れ続けた。
- ・少数の患者ではあったが、症状緩和外来を継続した。
- ・COVID-19による面会制限の中、ガラス越し面会やWebでのリモート面会を導入して患者・家族の精神的サポートを行なった。

今後の展望と課題

- ・緩和ケアの質を高めるため、定期的な勉強会実施によるスタッフ教育を行なう。
- ・緩和ケア病棟以外の症状緩和を必要とする患者に対し、緩和ケアチームの早期介入を進める。
- ・感染予防に配慮しつつ、病棟でのイベントなど終末期患者の精神的サポート面での充実を目的とした活動の再開を目指す。
- ・地域の在宅医との連携を密にして、在宅と緩和ケア病棟の連携を深める。

緩和病棟関連資料

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 入院数 | 306 | 199 | 379 | 317 | 303 |
| 延べ患者数 | 7,274 | 8,209 | 8,295 | 7,608 | 6,945 |
| 病床利用率 | 87% | 96% | 94% | 87% | 76% |
| 平均在科日数 | 20日 | 24日 | 21.8日 | 23.7日 | 23.2日 |

紹介先のリストと紹介数

| 紹介元 | 入院件数 | 面談件数 |
|----------------|------|------|
| 院内・法人内 | 170 | 175 |
| 堺市立総合医療センター | 41 | 145 |
| 近畿大学医学部付属病院 | 7 | 23 |
| たつみクリニック(浜寺石津) | 5 | 4 |
| 玉井クリニック | 5 | 0 |
| 大阪労災病院 | 4 | 14 |
| 大阪急性期・総合医療センター | 4 | 5 |
| 大阪国際がんセンター | 0 | 13 |
| 清恵会病院 | 0 | 8 |
| 大阪市立大学附属病院 | 0 | 7 |
| だんホームクリニック | 4 | 0 |
| その他 | 63 | 101 |
| 合計 | 303 | 495 |

持続オピオイド使用人数 192名
 持続鎮静使用人数 46名
 調節型鎮静使用人数 2名

入院してから1週間ごとの死亡数

| | 日数 | 死亡数 |
|------|---------|-----|
| 第1週 | 1~7 | 62 |
| 第2週 | 8~14 | 41 |
| 第3週 | 15~21 | 29 |
| 第4週 | 22~28 | 28 |
| 第5週 | 29~35 | 12 |
| 第6週 | 36~42 | 8 |
| 第7週 | 43~49 | 11 |
| 第8週 | 50~56 | 10 |
| 第9週 | 57~63 | 4 |
| 第10週 | 64~70 | 1 |
| 第11週 | 71~77 | 1 |
| 第12週 | 78~84 | 0 |
| 第13週 | 85~91 | 4 |
| 第14週 | 92~98 | 0 |
| 第15週 | 99~105 | 1 |
| 第16週 | 106~112 | 1 |
| 第17週 | 113~119 | 0 |
| 第18週 | 120~126 | 0 |
| 第19週 | 127~133 | 0 |
| 第20週 | 134~140 | 0 |
| 第21週 | 140~147 | 0 |
| 合計 | | 213 |

緩和ケア研修会修了者 2021年5月現在 94名

| | | | | | |
|----------|-------|----------|-------|--------|--------|
| 緩和ケア科 | 末田 早苗 | 心臓血管外科 | 井上 剛裕 | 歯科口腔外科 | 柳澤 高道 |
| 緩和ケア科 | 坂本 英代 | 心臓血管外科 | 札 琢磨 | 歯科口腔外科 | 長谷川淳子 |
| 総合診療センター | 藤本 卓司 | 腫瘍内科 | 中江 史朗 | 放射線科 | 岩本 卓也 |
| 総合診療センター | 松瀬 房子 | 産婦人科 | 坂本 能基 | 放射線科 | 出嶋 育朗 |
| 総合診療センター | 安田恵津子 | 産婦人科 | 内田 学 | 小児科 | 藤井 建一 |
| 総合診療センター | 大矢 亮 | 産婦人科 | 松岡 智史 | 小児科 | 田中 充 |
| 総合診療センター | 藤本 翼 | 産婦人科 | 高木 力 | 小児科 | 阿曾沼良太 |
| 総合診療センター | 杉本 雪乃 | 産婦人科 | 瀧口 義弘 | 小児科 | 瀬邊 翠 |
| 総合診療センター | 河村 裕美 | 産婦人科 | 松原 侑子 | 小児科 | 瀬戸 司 |
| 腎・透析センター | 大矢 麻耶 | 代謝・膠原病内科 | 川口 真弓 | 小児科 | 佐藤結衣子 |
| 腎・透析センター | 植田祐美子 | 代謝・膠原病内科 | 岩崎 桂子 | 小児科 | 安田のぞみ |
| 呼吸器内科 | 緒方 洋 | 代謝・膠原病内科 | 松廣 有紀 | 精神科 | 森田 大樹 |
| 呼吸器外科 | 佐藤 泰之 | 外科 | 山口 拓也 | 精神科 | 金 詩園 |
| 整形外科 | 河原林正敏 | 外科 | 平林 邦昭 | 専攻医 | 北川 綾美 |
| 整形外科 | 吉岡 篤志 | 外科 | 外山 和隆 | 専攻医 | 坂本 祥大 |
| 整形外科 | 小松 俊介 | 外科 | 吉川 健治 | 専攻医 | 成田 亮紀 |
| 整形外科 | 守津 汀 | 外科 | 戸口 景介 | 専攻医 | 斎藤 庸太 |
| 泌尿器科 | 田原 秀男 | 外科 | 中川 朋 | 専攻医 | 三世川宗一郎 |
| 泌尿器科 | 松村 直紀 | 外科 | 今井 稔 | 専攻医 | 佐藤 孝憲 |
| 泌尿器科 | 浜口 守 | 外科 | 碓野 孝治 | 専攻医 | 山口 涼也 |
| 消化器内科 | 岩谷 太平 | 外科 | 三谷 和大 | 専攻医 | 神山 雅喜 |
| 消化器内科 | 岡田 正博 | 外科 | 土居 桃子 | 専攻医 | 山本 沙羅 |
| 消化器内科 | 松田 友彦 | 外科 | 坂本 祥大 | 専攻医 | 中川友香梨 |
| 消化器内科 | 河村 智宏 | 循環器センター | 石原 昭三 | 専攻医 | 赤木 優月 |
| 消化器内科 | 櫻井 史歩 | 循環器センター | 鈴鹿 裕城 | 研修医 | 細谷 聖美 |
| 消化器内科 | 池田 響 | 循環器センター | 具 滋樹 | 研修医 | 深野耕太郎 |
| 麻酔科 | 鎌本 洋通 | 循環器センター | 松岡 玲子 | 研修医 | 前田 周吾 |
| 麻酔科 | 杉山 円 | 循環器センター | 梁 泰成 | 研修医 | 槌谷真裕子 |
| 麻酔科 | 南方 綾 | 循環器センター | 橋本 朋美 | 研修医 | 榎本 悠里 |
| 麻酔科 | 中村 佳世 | 循環器センター | 宮部 亮 | 研修医 | 野間 宥佑 |
| 病理診断科 | 木野 茂生 | 循環器センター | 南里 直実 | | |
| 脳神経外科 | 田中 禎之 | | | | |

精神科

担当医

○森田 大樹(非常勤)

認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医

○杉田 義郎(非常勤)

認定資格：精神保健指定医

○大野 草太(非常勤)

認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医

○金 詩園(非常勤)

認定資格：精神保健指定医

活動報告

外来診療において、精神疾患全般の診療に当たりました。初診患者数は年間40人でした。受診年齢層は20代から高齢層まで幅広くなっています。対象症例としては、家庭内や職場のストレス、トラブルが原因の神経症圏が最も多く、次にうつ病、続いて認知症症状、精神病の急性期や慢性期などでした。他の医療機関からの紹介患者も多く、年間29件ありました。

当院が総合病院である為、院内他科からの診療依頼も多く、コンサルテーション・リエゾン活動も活発に行いました。

また、当院のリエゾンチームには当科医師も加わっております。このため上記のような精神科医師への直接の診療依頼に応じる形だけでなく、せん妄の患者さんを中心にリエゾンチームとして依頼を受ける形もっております。この場合には「せん妄ラウンド」と称して、週に1回のラウンド(カルテラウンドを含む)も継続して実施しております。

更には、介護老人保健施設みみはらに入所されている方の精神症状が顕著となった場合の診察や、月1回の往診も継続しました。

今後の展望と課題

当院の精神科外来診療の特色と致しましては、当院が総合病院であるため、地域の精神科クリニックとは異なり、「他科との併診」という形の多さが挙げられます。つまり、「当院他科も受診している患者さん」の当科受診希望に対応していくことは、地域のニーズに応えるために欠かせないポイントであると考えており、今後も実践していく所存であります。

また、当科は病床を有しておりませんが、他科入院中の患者さんが様々な精神症状を呈した際に、主治医や病棟スタッフと共にアプローチを講じていく、いわゆる「リエゾン・コンサルテーション」にも重点をおいていきます。上述の通り、精神科医師が直接対応する形と、リエゾンチームが対応する形で今後も継続する必要があると考えております。

更には老人保健施設みみはらへの定期的な往診を継続して実施し、施設入所者さんの精神症状に対するアプローチにも取り組んでいきます。

麻酔科

担当医

○鎌本 洋通(麻酔科部長) (~2021/6)

認定資格：日本麻酔科学会専門医・指導医／日本心臓血管麻酔学会専門医／日本ペインクリニック学会専門医／
周術期経食道心エコー認定医／臨床研修指導医

○近畿大学からの招聘医師(麻酔科部長) (2021/7~)

認定資格：日本麻酔科学会専門医・指導医／日本ペインクリニック学会専門医／臨床研修指導医

○杉山 円(麻酔科医長)

認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／厚生労働省麻酔科標榜医／日本周術期経食道心エコー認定医／日本心臓血管麻酔専門医(正式認定)／臨床研修指導医

○中村 佳世(麻酔科医長)

認定資格：日本麻酔科学会麻酔科機構専門医／新生児蘇生法(Aコース)修了

○南方 綾

認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／日本小児麻酔学会小児麻酔認定医／日本周術期経食道心エコー認定医

活動報告

2021年度は総手術件数2,124件と前年度2,178件から減少しました。このうち、全身麻酔の件数も前年度1,310件から2021年度1,293件と減少しました。

予定手術件数の減少もあるのですが、これまで増加傾向にあった件数が減少したことに責任を痛感しております。

今後の展望と課題

2022年11月からは麻酔科常勤医師の5人体制が確立します。今後より円滑な手術室運営に貢献できるよう精一杯頑張っていく所存であります。

病理診断科

担当医

○木野 茂生(病理診断科部長)

認定資格：日本病理学会病理専門医・指導医／日本臨床細胞学会認定細胞診専門医／臨床研修指導医

活動報告

患者さんが病院に来られて、適切な治療を受けていただく為には、まず、適切な診断がなされることが必要です。その際に、しばしば「病理診断」が最終診断として大きな役割を果たしています。病理診断科の主な業務は 1. 細胞診断 2. 生検組織診断 3. 手術材料組織診断 4. 手術中迅速検査 5. 病理解剖の5つで、特に、がん死亡の2次3次予防について重要な役割を果たしています。

当科では、通常の染色や特殊染色に加え、一定の免疫組織化学的検索(50種以上)を活用し、正確な組織診断がなされる為の努力を行っています。さらに、診断に難渋する場合は、他施設の病理医を含めた検討や学会コンサルテーションなどの積極的活用を行っています。対象疾患は、内科系・外科系あるいは腫瘍・非腫瘍を問わず全ての疾患ということになります。特に、外科系であれば、消化器一般、呼吸器、婦人科、泌尿器の検体が多く、内科系では、肝生検、腎生検、皮膚生検、肺生検、骨髄生検をはじめ一般内科が取り扱う非腫瘍性病変全般も取り扱っています。また、各臓器の一般的な塗抹細胞診や吸引細胞診はもとより、細胞診断が重要な子宮がん、肺がん、膀胱がんなどのスクリーニング検査も行っています。

[主な検査機器]

1. 自動染色装置 2. 自動包埋装置 3. 自動尿標本作製装置

[カンファレンス等]

毎週行われる消化器外科、乳腺甲状腺外科、婦人科および呼吸器外科の術前術後カンファレンスには、病理医が直接参加し、総合的に患者さんの診断や治療方針に関する検討を行っています。また、解剖症例については、定例の院内臨床病理カンファレンス(CPC)を開催しています。

診断方法：

HE染色による病理組織診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的組織診断。パパニコロウ染色およびギムザ染色による細胞診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的細胞診断。セルブロック作製による診断。外注検査として、PDL-1、EGFR遺伝子変異解析、RAS-BRAF遺伝子変異解析、ROS-1、Her2/neu(FISH)やALK-IHC、MSI、蛍光抗体染色、フローサイトメトリーなどの検査を利用しています。

今後の展望と課題

新専門医制度に対応するべく、専門医研修病院としての要件を満たす為に、協力いただける基幹型研修病院である大阪市立大学との連携を早期に実現していくことが求められています。初期研修の中で、選択研修としての病理診断科での研修の必要性をアピールし、総合的な意思の育成に寄与していきたいと思えます。

一方、現在、受託を行っている院所については、診断についてのさらなる精度管理、迅速性を追求し、的確な病理診断を提供できるように、随時、努力していきたいと考えています。一方、一人病理医の欠点を補うための方策として①嘱託病理医との連携②基幹型病院が行うカンファレンスへの参加③病理学会コンサルテーションや近隣の病理医のコンサルテーションの積極的活用、④外部機関への免疫染色の依頼などを追求していきます。

また、現在参加している婦人科、乳腺外科、呼吸器科および一般外科系のカンファレンスのみならず、消化器内視鏡部門や泌尿器科など他科のカンファレンスへの参加を具体化していく必要があります。

放射線科

担当医

○岩本 卓也(放射線科部長)

認定資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医／日本インターベンショナルラジオロジー学会IVR専門医

○出嶋 育朗

認定資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医

活動報告

2021度のCT、MRIおよびRIの総所見数は26,748件となり、翌診療日にはそれぞれ45.5%、89.9%、72.6%の所見の返却を達成することができた。またIVR件数は年間127件であり、TACEやシャントPTA、中心静脈ポート、CTガイド下ドレナージ等を中心に各科の依頼に対応している。

今後の展望と課題

和歌山医大放射線科と緊密に連携し、所属医師との遠隔読影システムの運用を行い、一層の所見時間の短縮や内容の充実を目指し、読影量の増加にも対応したいと考えている。また2020年度からは医局からの医師派遣により、1名増員できているが、日本医学放射線学会認定の修練機関としてさらなる増員を希望し、医局に対し働きかけをしていく。

歯科口腔外科

担当医

○柳澤 高道(歯科口腔外科部長)

認定資格：日本口腔外科学会専門医・指導医／日本口腔感染症学会院内感染対策認定医・インфекションコントロールドクター／臨床研修指導医／日本レーザー医学会安全教育講習修了

○長谷川淳子(後期研修医) (～2021/6)

○富本 康平(2021/7～)

認定資格：日本口腔外科学会 認定医

活動報告

2021年度は第4波から第6波まで、変異株が猛威を振るったコロナ禍の1年であった。幸いなことに外来患者数は前年比で1.04倍と微増、入院延患者数は0.72倍と減少したが、手術件数は前年比1.26倍と増加した。さらに他院からの紹介患者数も406名と前年比1.24倍に増加した。また、耳原歯科診療所との連携については、歯科診療所からの紹介患者数は前年とほぼ同数、当院から歯科診療所への往診依頼件数も前年とほぼ同じであり、連携は順調に推移した。

周術期口腔機能管理患者数に関しては、手術患者では前年比で若干減少したが、癌化学療法ならびに緩和ケア患者の口腔機能管理件数に関しては前年比1.13倍と増加した。

昨年度から新たに参加した退院時カンファレンス(多職種連携)件数は133件と前年比0.77と減少した。これはコロナ禍でのカンファレンス開催の難しさが影響したためであり、2021年度の後半からはリモートでの参加体制を構築した。

学会活動では3件の学会発表をおこなった。

今後の展望と課題

当科は外来診療が中心となる診療科であるが、地域医療支援病院の中の1診療科であることから、今後、一層再診患者数の減少、入院化率の上昇を考慮した診療体制をとっていく必要がある。

今年度は他院からの紹介患者が増加したが、今後はさらに入院化率の上昇に繋がる症例の増加を目指したい。その1つとして、手術の幅を拓げることを考えている。具体的には顎骨骨折を主体とする顔面外傷の治療を考えおり、次年度の医療器機になかにも顎骨骨折手術器機を申請している。

診療のボリュームに比して狭小となった外来診療スペースの改善が、今後とも引き続き大きな課題である。